



## 感染症拡大防止のお願い

先週から今週にかけて、複数の感染症によって、学校を欠席する子供たちが急増しています。中でも、手足口病やマイコプラズマ肺炎が多いようです。これらの感染症にかかると、学校保健安全法により、出席停止の扱いとなります。

手足口病は、一般的には、5歳以下の子供に多く見られ7月ごろをピークとして流行します。熊本市でも2学期が始まった9月頃から感染が再拡大傾向にあります。病名のとおり、手のひら、足の裏、口の中に痛みをともなう発疹が現れる夏風邪です。また、かかった場合、3割程度は発熱をともないます。しかし、子供だけがかかるのではなく、大人でもかかるので注意が必要です。実は、手足口病は、子供よりも大人の方が、症状が重く出やすいことが特徴です。発疹の痛みは大人の方が強く出ます。また、インフルエンザにかかる前のような、全身倦怠感、悪寒、関節痛、筋肉痛などの症状が出ることもあるのも、大人の特徴です。厄介なのは、1度かかって免疫ができて、何度もかかる場合もあります。それは、一口に手足口病といっても、ウイルスがいくつもあるからです。インフルエンザウイルスに、A型、B型など複数のタイプがあるのと同じです。



マイコプラズマ肺炎は、患者として報告されるもののうち約80%は14歳以下ですが、成人の報告もみられるそうです。症状はしつこい咳が特徴です。まず、発熱や倦怠感、頭痛、のどの痛みなど、かぜに似た症状が出て、それらの諸症状が治まった頃に、乾いた咳が長く続きます。感染初期は発熱のみでせきが出ないことも多いため、医師にとっても診断が難しいということです。一部の人は肺炎が重症化したり、発熱で衰弱したりして入院するケースがある他、まれに脳炎を起こすこともあります。

これも、9月に入ってから再拡大傾向にあり、大人や未就学児の感染も急増している状況だそうです。

いずれにせよ、学校では感染症の拡大傾向にあります。体調がすぐれない、あるいは感染症の疑いがある場合は、早めに病院を受診して、適切な治療を受けるようにして欲しいと思います。また、飛沫感染防止のためのマスクの着用や、接触感染を防ぐ手洗いなど、新型コロナウイルスのときに学んだ感染症対策を行うことで、感染抑止に有効に働きます。



また、感染してしまった場合は、感染を広げないように、なるべく他の人との接触を避けましょう。そして、自宅などで十分な休息を取り、タオルなども共有を避け、体力を消耗しないように過ごすことが大切です。出席停止期間は、子供の体調回復が認められ、かつ医師が感染のおそれがないと認めるまでは、登校させないようにしてください。

2学期は学校では行事等が多く、充実した学びの時期を迎えます。感染症対策を十分に行い、子供たち一人一人が学びを成長に生かせるように、力を合わせて、感染症拡大に歯止めをかけていきましょう！